

研究主題	<p>主体的・協働的に学び、考えを深める児童の育成 ～へき地・小規模校の特性を活かした算数科の授業づくりを通して～</p>
<p>主題設定の理由</p>	<p>今日、子どもたちの資質・能力を確実に育成する必要性が、中央教育審議会答申、『令和の日本型教育』の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(令和3年1月26日)の中でも提唱されている。その「個別最適な学び」と「協働的な学び」を、「少人数のよさ」と「異学年の児童が共に学ぶよさ」によって実現できるのが「複式学級のよさ」である。</p> <p>本校は、完全複式学級への移行が進みつつある中で、昨年度から算数科の研究を行い、「見通しの持てる授業展開、学習リーダーの育成、指導者のファシリテーターとしての技術の向上を三本柱にして授業改善を図った。その結果、</p> <p>1 児童アンケート「授業では、情報を、比べたり(比較)、仲間分けしたり(分類)、関係を見付けたり(関係付け)して、何が分かるのかを考えています。」に対する肯定的評価73.8%。(令和7年度 児童生徒意識等調査)</p> <p>2 教師アンケート(4段階評価)「個別最適・協働的な学びの実現のために、ファシリテーターとして児童に寄り添う授業を仕組んでいる。」に対する肯定的評価88%(校内職員アンケート)</p> <p>3 単元末テスト 算数科の単元末テストの「思考・判断・表現」の学期ごとの平均得点が75点以上の児童を、全校児童の80%以上に作る。」(全校児童の88%が達成)</p> <p>4 三次市学力到達度検査 3年生以上対象の三次市学力到達度検査の算数科において、全国平均正答率を上回る児童を、3年生以上の全児童の75%以上に作る。」(3年以上の児童が100%達成)という結果となり、成果が見られた。しかし、先述した『令和の日本型教育』の構築を目指して(以下略)」の視点で本校の授業を振り返ってみると、まだまだ「指導者視点」の授業実践が多く見受けられ、児童による主体的・協働的に学び、考えを深める児童の育成の実現に十分到達しているとは言い難い。</p> <p>そこで本年度も、昨年度1年間の研究成果を活用しながら更に研究内容を焦点化して算数科への取り組みを深め、児童の主体的・協働的に学び、考えを深める児童の育成の実現を目指す。その具体的な手立ては以下の2点である。</p> <p>① 学習リーダーの育成 川西小学校算数科の学びのスタイルを全学年で統一する。学習リーダーを育成するとともに見守り型複式授業を行う。児童自身が授業の案内人となり、自分たちが主体的で協働的に学び合う授業を通して深い学びが実現することは、児童の協働的な学びを通して学力の伸長につながると思える。</p> <p>② ファシリテーターとしての技術の向上 教師は、次に示すファシリテーションの4つのスキルを取り入れ、日頃の授業からファシリテーターとしての授業の舵取りに取り組む。児童間で意見を伝え合ったり、互いの意見を比較検討させたりするよう舵取りを行う中で、主体的で協働的に学び合い深い学びが実現すると考える。</p>
<p>研究仮説</p>	<p>「学習リーダーの育成」、「ファシリテーターとしての技術の向上」を行えば、主体的・協働的に学び、考えを深める児童を育成することができるであろう。</p>
<p>研究内容</p>	<p>1 学習リーダーの育成の具体的な手立て ・低学年は、まず「学習は自ら取り組むものだ。」という心構えをもたせ、学習規律を徹底し、子連れ参観の実施により、学習リーダーを育成する。 ・中・高学年は発達段階等の実態に応じて学習リーダーの実施形態を決定するとともに、「川西学びのスタイル」に取り組みさせることで、学習リーダーを育成する。毎時間活用できる「算数リーダーの手引き」を作成する。 ・教師は児童の主体性を尊重し、必要のない場面では極力、学習リーダーに任せ、見守る姿勢を心がける。</p> <p>2 ファシリテーターとしての技術の向上の具体的な手立て ・児童には、学習リーダーになった場合、公平に指名し全員の進捗を確認することを徹底させる。また、児童間で「分からない。」「ここまでは分かる。」等の意見を伝え合える雰囲気づくりや、発言する習慣も身につけさせる。 ・教師は、日頃の授業からファシリテーション4つのスキルを意識して授業の舵取りに取り組む。</p> <p>(1) 共有(場のスキル)……場をつくり、つなげる。(例)目的、目標を設定し、合意する。話しやすい雰囲気をつくる。進め方を設定する。 (2) 発散(対人関係のスキル)……受け止めて、引き出す。(例)傾聴で安心感と信頼感を与える。質問で意見を引き出す。柔らかく主張して、話し合いを方向付ける。 (3) 収束(構造化のスキル)……かみ合わせて、整理する。(例)あいまいな主張を明確にする。全体像をつかみ、多彩な視点から議論する。議論を描く、図解を活用する。 (4) 決定(合意形成のスキル)……まとめて、分かち合う。(例)対立をチャンスと捉える。適切な対立解消方法を選択する。言葉の奥の本音を探る。(参考文献「Nits(独立行政法人教職員支援機構)教職員研修の手引き(2018)」)</p>
<p>検証の指標及び検証方法</p>	<p>1 学習アンケート 学期末にアンケートを実施し、「学習リーダーを中心にみんなで協力して、本時の学習を深めることができています。」「自分の考えと友達のを比べながら、しっかりと考えて自分の考えが深まった。」に対する肯定的評価の割合90%以上</p> <p>2 職員アンケート 学期末にアンケートを実施し、「ファシリテーターとして児童相互の関わり合いを活性化させるように仕組んでいる。」に対する肯定的評価3.0以上(4点満点)</p> <p>3 単元末テスト 算数科の単元末テストの「思考・判断・表現」の正答率75%以上の児童を、全校児童の割合84%以上に作る。</p> <p>4 三次市学力到達度検査(対象5年)、全国学力学習状況調査 各学力検査の算数科において、全国平均正答率を上回る児童を、三次市学力到達度検査・全国学力学習状況調査合わせて対象児童の80%以上に作る。</p>